

# どんぐりくん

発行者 NPO 法人地球の緑を育てる会  
主たる事務所  
つくばみらい市陽光台 1-1-2 B-829  
〒300-2358 Tel&Fax 029-757-1539  
従たる事務所  
〒305-0046 つくば市東 2-15-31  
Tel&Fax 029-851-0120  
E-mail [office@greenglobe.jp](mailto:office@greenglobe.jp)  
URL <http://www.greenglobe.jp>

## 寒中お見舞い申し上げます。

旧年中は皆様からのご支援を賜りながら、計画通りの活動がなかなか進まず、まずはお詫び申し上げます。

昨年は地球温暖化というより、地球沸騰化であるというような言葉が公然と使用されるようになるなど、異常気象による国内外で頻繁に起った災害には、誰もが将来に対し言いしれぬ不安を抱かざるを得ない年になったのではないのでしょうか。エルニーニョ現象により海水の温度が上昇、それによって起る偏西風の蛇行が極端な寒さや暑さを生んでいると伝えられています。

地球を取巻く「温室効果ガス（二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、代替フロン等）」という気体の層が、地球の温度をバランスの良い状態に保っているわけですが、炭酸ガスやメタンが増えると、地表で反射して放出されるべき太陽からの熱が、放出されにくくなり、地球が暖かくなってしまいます。

二酸化炭素を削減するためには、二酸化炭素を出さない革新的技術の発明や発見、二酸化炭素を吸収する樹木の働きを活用する、大きくこの二つの方法が挙げられると思います。一般市民にとって、技術の発明などはなかなか難しいものがありますが、どんぐりを集め、苗木にし、植樹する活動なら比較的安易だと思いませんか。「木を植えると日陰になる」、「枯れ葉が落ちて、掃除が大変」など、人間の勝手を言っている場合ではありません。何かわからないことがあれば、聞いて下さい。そして何を食べるかに気を遣うことも、自身の健康保持のためだけでなく、地球温暖化防止にも繋がるのです。2050年の脱炭素0まで、残された時間は長くはありません。みんなで本気になってトライしていきましょう。

## 最近、海外からのメールや交流が多くなってきています。

■昨年5月28日の筑波山水源の森づくりの折り、フランスのNGO（ブームフォレスト）で森づくりを進める、ギョーム・ドジエ（Guillaume Dozier）さん、同じフランスからのジャーナリスト、ニコル・セルニック（Nicolas Celnik）さんが参加されました。お二人とも、宮脇方式の森づくりに深い関心を持たれており、植樹終了後には、当会の圃場まで来られ、器具の片付けなどを手伝ってくれました。いろいろとトークが交わされ、小さいけれど、立派な国際交流ができました。帰国後、「宮脇方式」による森づくりを広めていきたいそうです。



植樹祭前日、植栽地の整備を行う  
Guillaume Dozier 氏



Neelam Patil さん

■アメリカカリフォルニア州パークレー在住の小学校理科の先生・ニラム・パティル（Neelam Patil）さんが、宮脇方式の森づくりを小学校に広めたいと訪日、約10日間滞在、横浜国立大学の森など宮脇方式の森を見学、7月13日には理事長の石村がつくばみらい市の当会圃場及び、つくば市内の国立環境研究所の一角にある「宮脇方式」による森を案内しました。



植樹祭を楽しむ Guillaume Dozier 氏（左）  
と Nicolas Celnik 氏（右）



国立環境研究所の周囲を囲む森

この森は、当会が手がけた森ではありませんが、同研究所の創設にあたり、宮脇先生が指導、実施された森です。およそ30年以上は経ており、その大きさは目を見張るものがあります。今年4月には、小学生を連れて再び訪日するそうです。

■昨年10月頃、アメリカ PBS 放送局 (Public Broadcasting Service) からの問い合わせがありました。「宗教と森」に関する番組制作のため、同放送局は4カ国を取材予定で、その中の



左から、PBS 関係者・Cellin Gluck 氏、石村章子 出雲大社相模分祠宮司・草山清和氏

一つとして日本の「宮脇方式」の森づくりについての取材を希望。約2週間の滞在中、様々な経緯を経て、10月13日、石村は秦野市にある出雲大社相模分祠にて、取材を受けました。その他の国々の取材も増える予定で、オンエアは2025年だそうです。

■昨年末、当会理事であり、横浜国立大学名誉教授の藤原一繪先生に、アメリカに本部を置く国際生態回復学会から問い合わせがあったそうです。関西の京都府精華町、大阪府大東市、大阪府茨木市をそれぞれの頂点とする三角形に入る地域に「宮脇方式」による植樹を希望し、5万ドル(約700万円)から10万ドル(約1400万円)の支援金を寄付するというものです。2025年3月までの植樹実行予定だそうです。植樹候補地としてお心当たりある方、是非、お申し出下さい。よろしくお願い申し上げます

■気象研究所の方から問い合わせがありました。本年春休みの時期に、かつての同僚で現在、フィンランドのNGOで活動している Jere Nieminen 氏が訪日、「宮脇方式」の森づくりに非常に興味を持たれ、また筑波山水源の森づくりの植樹地を調査したいとの希望があるそうです。このことに関しましても、いずれご報告させて頂きたいと思っております。

■藤原先生からのご連絡がありました。2024年6月1、2日、国連 G20 Global Land Initiative 主催の「Miyawaki Forest」シンポジウムが横浜国立大学で開催される予定だそうです。公益財団法人鎮守の森のプロジェクト(理事長・細川護熙元首相)が実行委員会となるそうです。藤原先生のご活躍のこともあり、いよいよ「宮脇方式」の森づくりが世界に広まっていく道が大きく開けたような気がします。

## 第5回「ユーキャンの森 in 筑波山」植樹祭が行われました。



以前の植樹地で記念撮影

2023年9月30日、通信教育で有名なユーキャンの社員たち16名が、社員研修の一環として、筑波山神社林内に100本の苗木を植えました。午前中は、マルチングに使うため、スギの間伐材の枝切りを行い、持参のお弁当を食べて、午後から植樹。スギの葉のマルチングを済ませて以前植えた苗木の側で記念撮影。コロナで植えられなかった4年ぶりの活動で本当に楽しそうな皆さんでした。



植えるの楽しい!



スギの葉でマルチング

- 新しく会員になられた方々ありがとうございます。  
(2023年7月25日~2023年12月31日)(敬承略)  
鈴木純子(茨城県つくばみらい市) 小山恵美子(茨城県土浦市)  
力園子(神奈川県湯河原町)
- ご寄付下さった方々ありがとうございます。  
(2023年7月25日~2023年12月31日)(敬承略)  
匿名希望の方(神奈川県厚木市) NPO 法人車社会の環境改善委員会  
(千葉県我孫子市)